

<談 話>

**衆院本会議での TPP 承認案・関連法案の強行採決に抗議し
批准阻止に向けてさらなる運動を呼びかける**

2016年11月10日
全農協労連中央執行委員長 砂山太一

本日11月10日、衆議院本会議において TPP 批准案および関連法案が上程され、自民・公明・維新などによる賛成多数で可決された。不本意ながら、これから国会審議の舞台は参議院へと移る。

しかし、衆議院での審議は与党からも疑問が噴出するような、異常な国会運営のもとで行われてきた。これを不問にして本会議に踏み切ったことは、政府与党をあげて議会制民主主義を愚弄する暴挙であり、許されるものではない。審議を衆議院の TPP 特別委員会に差し戻すべきである。

また、SBS米の価格偽装問題の真相をあきらかにしないばかりか、強行採決や農協への利益誘導など、暴言を繰り返した山本農林水産大臣の責任は極めて重大である。政治日程を理由に山本大臣を擁護した政府与党の姿勢は許されない。このような大臣にこれから参議院での答弁をさせることは言語道断であり、即刻辞任を求めるものである。

しかしこの間、政府与党がこうした様々な暴挙を重ねざるを得なかったことは、私たちが広げてきた共同の運動が政府与党を追い詰めていることの表れである。全農協労連はこのことに確信を持って、参議院での廃案・批准阻止を勝ち取るため、引き続き全力でたたかう決意である。さらなる運動を全国の仲間から呼びかける。

以上